

# GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 6 – 1 & 2 Thessalonians

The 2nd Coming of Christ

1Thess. 4, 5 & 2 Thessalonians

神は我らと共に

パート10：初期の手紙

第6メッセージ-第一、第二テサロニケ

キリストの再臨

第一テサロニケ4, 5章、第二テサロニケ

## はじめに

テサロニケの教会は、新しい信者によって構成されていたにも関わらず、パウロの他のどの手紙よりも多く、キリストの再臨について記されていることが素晴らしい！イエスの再臨についての教えは、新しい信者に対してさえ、パウロの宣教の中心であったことがわかります。成熟した信者のためだけの主題ではなく、「弟子にとっての基本的な教え」でした。この教えの必要性は、初期のキリスト者たちが生かされていた状況下において、特に重要でした。当時の文化の中で、死に至るまで迫害されることが頻繁にあったので、「終焉」の教え（キリストの再臨、迫害者に対する神の裁き、死んだ者の復活、永遠の報酬などについての教え）は、信者としての希望という、よりどころとして重要でした。キリストの再臨と神の御国の究極の勝利についての教えは、キリストご自身が教えられました。苦しみ、喪失、死に直面しても、自信と希望を持って忍耐する勇気をお与えになりました。

今日、多くのキリスト者は、はるかに平和な状況で生活しているので、キリストの再臨に関する聖書の教えを忘れ、無視しがちですが、1世紀に生きようと、21世紀に生きよう

と、苦しい時にも、幸福な時にも、キリストの確実な再臨を待ち望んで生きるべきです。主がいつでも戻って来られることを常に期待して、生きていかなければなりません。

励まし：

**第一テサロニケ 4：1-5:22**

今回の学びは、キリスト者としての生き方についてのパウロの実践的な教えに入るところから入ります。前回の学びの終わりで、パウロが、テサロニケ教会の人々の愛がお互いに向かってさらに増し加え豊かにして下さるように祈ったところでした（第一テサロニケ3：12-13）。愛の結果、心が強められ、神の御前に、あなた方の心を強め、清く、責められるところのない者にして下さいます。その教えは、当時も今も、聖なる愛を実証する非常に現実的な問題へとパウロを導きます。

**-性的罪に関して：第一テサロニケ 4：1-8**

パウロは、神を喜ばせるために、どう生きることができるかという以前の教えを思い出させ、テサロニケの人々がそれを実践していることを肯定しました。しかし、未だ仲間の間で一般的な、神のご計画に反する性的慣行に従事していることも知っていました。ローマの文化では、特に男性の間で性的不道徳を促進していました。新しい信者たちが古い慣習を断とうとしている経過にありました。

**4:3 神のみこころは、あなたがたが清くなることである。すなわち、不品行を慎み、4:4 各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち、4:5 神を知らない異邦人のように情欲をほしのままにせず、4:6 また、このようなことで兄弟を踏みつけたり、だましたりしてはならない。前にもあなたがたにきび**

しく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて、報いをなさるからである。4:7 神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。4:8 こういうわけであるから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心に賜わる神を拒むのである。(第一テサロニケ 4 : 3 – 8)

御霊は、神の子たちを聖別(浄化、清め)されることを望んでおられます(4:3)。セクシュアリティは、特に仲間の信者たちに神の愛を示すために、私たちの内で変えたいと願っておられる重要な領域です。御霊の実には、「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制」があります(ガラテヤ人 5: 22,23)。境界を越えて、誰かを性的に利用することは、神の愛と御心に完全に反します。神は、それを軽視する者を懲戒されます。

性的、関係的振る舞いの抑制は、神の愛を示すことであると理解することは、他者の愛し方についての動機を完全に変えます。「聖なる誉れある方法で体を制御することを学ぶ」ために、どの様なステップを踏むことができますか？ 1) 性的誘惑がどこにあるかを知り、それらを避ける。2) 私たちのために祈り、困難な質問をしてくれる数人の親しい友人に他する説明責任を果たす。3) インターネットフィルターや説明責任ソフトウェアを使用して、不道德な内容から目を守る。4) 私たちを引き下げている根本的な問題に対処する。5) 私たちの性的必要を満たすための神の贈り物である、成熟した親密な結婚を育む(第一コリント 7: 1-5)。6) 神と説明責任グループに短く説明する。私たちが躓くとき、神とグループに罪を告白します。特に、私たちの利己的な振る舞いが彼らに与えた影響を認めることを謙虚に行う。恥と孤独の中に陥らないでください。それはさらなる罪へと繋げるだけです。

#### -愛について：第一テサロニケ 4 : 9-12

ここでパウロは、神の真の愛に重点を置いています(3: 12, 13)。テサロニケ人は、人々に愛を示すことで評判でした。その上でパウロは、さらに「愛し合う」よう勧めています。

4:9 兄弟愛については、今さら書きおくる必要はない。あなたがたは、互に愛し合うように神に直接教えられており、4:10 また、事実マケドニヤ全土にいるすべての兄弟に対して、それを実行しているのだから。しかし、兄弟たちよ。あなたがたに勤める。ますます、そうしてほしい。4:11 そして、あなたがたに命じておいたように、つとめて落ち着いた生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ずから働きなさい。4:12 そうすれば、外部の人々に対して品位を保ち、まただれの世話にもならず、生活できるであろう。(第一テサロニケ 4 : 9 – 12)

パウロは、人々の私生活を尊重し、一生懸命働くことによって、他者を実質的に愛するよう促します。後の2通目の手紙(3: 11-12)で、一生懸命働くことを怠り、他の人の事柄を気にすることで、「忙しい人たち」の同様の問題を繰り返します。パウロが二度、この問題に対処しなければならなかった理由は、一部の人にとっては、誘惑であり、その様に行動し続けていたことを示しています。

今週、どうすれば他の人を「もっと」愛することができるのでしょうか？神があなたに招いておられる実用的ステップは何でしょうか？特に、クリスマスを迎えようとしている時期に、非常に悲しんでおられる方々が沢山おられます。周囲が大切な人たちと楽しい祝日を祝っている様子を見て、その人たちが失った大切な人たちが思いだされるからです。そんな人たちに気付くことが出来るように、神に助けをいただき、特別な触れ合い、「さらに愛する」ことが出来るように祈り

ましょう。あなたのその愛の行いがその人をイエスに踏み出す一歩へと繋げるかもしれません。

#### -死んだ信者たちについて：第一テサロニケ 4：13-18

ここでパウロは、キリストの再臨の主題へと移ります。人々は、愛する者を亡くしました（迫害のためである可能性があります。参照：第2テサロニケ1章）。彼らは、キリストの再臨の前に死んだキリスト者たちの運命がどうなるかを知りたかったのです。そこで、パウロをキリストの再臨の際、最初に復活するのは、死んだ信者たちであるという主題へと導きます。

**4:13** 兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。**4:14** わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。**4:15** わたしたちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人々より先になることは、決してないであろう。**4:16** すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、**4:17** それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。**4:18** だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4：13-18)

第16,17節に注意してください。イエスは、天から下ってこられ、上空にお現れになります。そして、まず、イエスの信者として亡くなったすべての人々が、墓からよみがえり、

新しい栄光の体を受け、イエスに加わります（彼らの地上の体がいかに破壊または腐敗したかに関係なく）。次に、地上で生き残っている信者たちが、引き上げられ、イエスに会いに行きます。そして、死んでいた信者と生き残っていた信者たちが一緒になります。そうして、私たちは、主と共に永遠になります。ギリシャ語の「追いついた」（17節-harpazoo）は「奪い去る」ことを意味します。「携挙」という用語は、イエスが地球から愛する人を奪い去る出来事を指すのに用いられます。

パウロが言いたかった実践的ポイントは、上記の一節の冒頭にあります。キリスト者は、希望のない人たちの様に、愛する人の喪失を嘆く必要はありません。信者はいつか、亡くなった愛する人（キリストを信頼した人）に再会します。パウロは、次のように結論付けています。「あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい。」実際、携挙と復活の真理は、死に直面しても、私たちの魂に勇気を吹き込むべきです。注：この肉体的な復活と携挙は、信者が亡くなった瞬間、その魂は、イエスと共にあるという聖書の教えと混同されるべきではありません（ピリピ1:23; 第2コリント5:6-8）。その後、キリストの再臨時に、私たちは新しい体を受け取ります。

#### -主の再臨について：第一テサロニケ 5：1-11

パウロは、以前にテサロニケの人々に「主の日」について教えました。これは聖書でよく用いられる言葉で、キリストの再臨を含む終末の出来事のすべてを指します。「主の日」の重要な側面は、邪悪に対する神の裁きです（すなわち、「神の怒り」）。それがここでのパウロの主な強調点です。神の裁きは、イエス、または神の再臨を信じない人々に、迅速かつ予

想外に下るでしょう。一方、神の子どもたちは、警戒し、イエスの再臨を期待して生きます。

**5:1** 兄弟たちよ。その時期と場合とについては、書きおくる必要はない。**5:2** あなたがた自身がよく知っているとおりに、主の日は盗人が夜くるように来る。**5:3** 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。**5:4** しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。**5:5** あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。**5:6** だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。**5:7** 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのである。**5:8** しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。**5:9** 神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。**5:10** キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。**5:11** だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい。  
(第一テサロニケ 5 : 1 - 11)

ここで鍵となるのは、主の日がそれを期待していない人々に「夜の泥棒の様に」来るという考えです(参照: 5: 2, 3 すなわち、「平和だ無事だ」と言っている不信者たちに)。その反対に、警戒を続け、主の帰りを期待している信者にとって、主の日が夜の泥棒の様に来ることはありません(5: 4)。パウロの信者への

忠告は、目を覚まし、警戒し、穏やかに、イエスの帰還を待つように警告しています。また、信者が神の怒りを決して経験しないという事実によって励まされることを望んでいます(第一テサロニケ 5 : 9 - 11)。

私たちには、イエスの再臨がいつであるかについての詳細は知らされていないとイエスは言われました(参照: 使徒 1 : 6、7)。それでも、主に会うことを期待しているので、生涯を通して警戒し、期待することが可能です。もしかすると、「予期しない」死を通して、イエスに会うことになるかもしれません。または、イエスが「予期せず」再臨時に空に現れたときに、会うことになるかもしれません。どちらにしても、いつイエスにお会いしてもよいように、期待して生きるべきです。もし、イエスが今年中に戻って来られるとしたら、イエスの到来の準備をするために何をすべきでしょうか？

#### 他の実践的な問題に関して： 第一テサロニケ 5 : 12-22

手紙を閉じる前に、パウロは様々な問題を扱っています。

**5:12** 兄弟たちよ。わたしたちは願います。どうか、あなたがたの間で労し、主にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒している人々を重んじ、**5:13** 彼らの働きを思って、特に愛し敬いなさい。互に平和に過ごしなさい。  
(第一テサロニケ 5 : 12, 13a)

初代のキリスト者の指導者たちは、無報酬で、自発的に働きましたが、地元の教会が成熟するにつれて、教会の必要を世話することに、ますます多くの時間を費やすようになり、指導者を認め、支援することが必要となりました(参照: 第1テ

モテ 5 : 17, 18) 。ここでパウロは、その様な愛の労働者を認め、敬意を表しています。パウロは、彼らの物質的必要を満たすことも念頭に置いていたことでしょう。

**5:13** 彼らの働きを思って、特に愛し敬いなさい。互に平和に過ぎなさい。**5:14** 兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。**5:15** だれも悪をもって悪に報いないように心がけ、お互に、またみんなに対して、いつも善を追い求めなさい。(第一テサロニケ 5 : 13 - 15)

「互いに平和に生きる」ということは、必要なときに、困難なことを愛を持って口にするのを避けるということの意味するものではありません。様々な状況において、パウロが用いた動詞、警告する(破壊的)、励ます(落胆)、助ける(弱者)、忍ぶ(すべて)の様々なアプローチが必要です。

**5:16** いつも喜んでいなさい。**5:17** 絶えず祈りなさい。**5:18** すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。(第一テサロニケ 5 : 16 - 18)

ここに、3つの命令があります。それらは、私たちの益のために、神に向ける私たちの姿勢を指し、また、それぞれの動詞はすべて「常に」という語で修飾されています。喜んでいなさい - 祈りなさい - 感謝しなさい。 . . . 常に。

「喜んでいなさい」とは、非常に悲しくても喜びを選ぶことを意味します。たとえ神の神秘的な方法を理解していなくても、「神は、神であり、私は、神ではない!」と認識することを選択します。継続的に「祈りなさい」とは、私が神の最

愛の子であり、神が私の「アバ」または「パパ」であることを知り、神との継続的な対話を深めることを意味します。神は、私の日常生活に深く関わりたいと切望しておられ、私たちは、神に自由に接近し、何でも話すことができます。「常に感謝しなさい」ということは、私の人生のすべての困難に感謝しているという意味ではありません。しかし、神が100%信頼できることに感謝することを選択できることを意味します。理解できなくても、神は良い神であり、父であると信じることができます。

**5:19** 御霊を消してはいけない。**5:20** 預言を軽んじてはならない。**5:21** すべてのものを識別して、良いものを守り、**5:22** あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。(第一テサロニケ 5 : 19 - 22)

御霊を「消す」とは、御霊の動きを拘束、無視、または抑制し、個々に、または信者の共同体としての生活の中で「声を発する」ことです。私たちを惑わそうとする多くの狡猾な霊も存在するので、「神からのみ言」を注意深く聞き分けつつ、御霊の声に開かれるべきですとパウロは教えます(第1ヨハネ 4 : 1-3)。

注：初期キリスト教の時代の数年間は、人々は、未だ新約聖書から学ぶところまで進んでいませんでした。使徒たちの手紙のいくつか(この章の27節に注意)は、回覧されていました。おそらく4つの福音書の初期の形のものと使徒の働きも回覧されていたと考えられます。この文脈において、御霊は、これらの特別な賜物を持つ人々を通して、主から預言とみ言が非常に活発に与えられていました。この御霊の働きは、正規の新約聖書が形成(今日も続く)された後も続いていましたが、

御霊に触発された新約聖書（神のみ言）が、より広範囲に広まるようになったとき、変化がありました。神聖な聖書からの御霊に満ちた教えは、教会が集められたときに起こった教えの実体を形成し始めました。御霊は、引き続き、神の民に「預言のみ言」を、より明確で客観的な方法で語っておられました（ペテロは聖書を「より確実な預言の言」と呼んでいます。第二ペテロ 1：19）

### 結びのことば：第一テサロニケ 5：23-28

第一テサロニケのすべての章は、キリストの再臨に関する言及で終わります。最終章の結びも例外ではありません。

**5:23** どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。 **5:24** あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう。 **5:25** 兄弟たちよ。わたしたちのためにも、祈ってほしい。 **5:26** すべての兄弟たちに、きよい接吻をもって、よろしく伝えてほしい。 **5:27** わたしは主によって命じる。この手紙を、みんなの兄弟に読み聞かせなさい。 **5:28** わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあるように。（第一テサロニケ 5：23－28）

## 第二テサロニケ人への手紙

パウロがテサロニケ人へ書いた二通の手紙の間に、どれだけの時間が経過したかは定かではありません。解っていることは、進行中の迫害と苦しみが第二の手紙の背景を形成したということです。

パウロは、三つの目的のために第二の手紙を記しました。  
1) 苦しむ信者たちを励まし、2) キリストの再臨に関する誤った教えを正し、3) 敵対的な世で彼らの信仰に生きるためにはどうすればよいかを彼らに教えるために。

### 第二テサロニケの概要

挨拶：1：1,2  
キリストの再臨の際、苦しみから救済される：1：3-12  
キリストの再臨に先立って起こるべき二つの出来事：2：1-15  
励ましと強さのための祈り：2：16,17  
パウロの祈りのリクエスト：3：1-5  
働かないことに関する警告：3：6-15；3：16-18  
結びのことば：3:16-18

### 挨拶：第二テサロニケ 1：1,2

パウロがこれらの手紙の主要な著者ですが、第二の手紙を構成したとき、シラスとテモテが物理的にも、霊的にもパウロと共にいたことが明らかです。

キリストの再臨のとき、苦しみから救済される：  
第二テサロニケ 1：3-12

この部分は、祈りから始まり、祈りで終わります。しかし、パウロは、苦しむ信者を励まそうとして、祈りモードから「指導モード」に移行した様です。

**1:3** 兄弟たちよ。わたしたちは、いつもあなたがたのことを神に感謝せずにはおられない。またそうするのが当然である。それは、あなたがたの信仰が大いに成長し、あなたがたひとりびとりの愛が、お互の間に増し加わっているからである。  
**1:4** そのために、わたしたち自身は、あなたがたがいま受けているあらゆる迫害と患難とのただ中で示している忍耐と信仰とにつき、神の諸教会に対してあなたがたを誇としている。  
**1:5** これは、あなたがたを、神の国にふさわしい者にしようとする神のさばきが正しいことを、証拠だてるものである。その神の国のために、あなたがたも苦しんでいるのである。  
(第二テサロニケ 1：3－5)

パウロは、ここにキリストの再臨に関して、二つのメッセージを記しています。第一に、迫害者の手に苦しんでいる神の民に救済があるということ。第二に、すべての問題を引き起こした人々への報復があるということ。

**1:6** すなわち、あなたがたを悩ます者には患難をもって報い、悩まされているあなたがたには、わたしたちと共に、休息をもって報いて下さるのが、神にとって正しいことだからである。**1:7** それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。**1:8** その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わな

い者たちに報復し、**1:9** そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。**1:10** その日に、イエスは下ってこられ、聖徒たちの中であがめられ、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるであろう――わたしたちのこのあかしは、あなたがたによって信じられているのである。(第二テサロニケ 1：6－10)

パウロがキリスト者となる前、彼自信が迫害者たちと同様に、信者を迫害して殺害していたことを覚えることが重要です。パウロの無知と無実な人々に恐ろしい迫害を行ってきたことを完全に悟りました。神は、迫害者であったパウロをお赦しになり、お用いになって、パウロが奪った人たちが健全に苦しまなければならなかった様に、他の人々もまた、健全に苦しむ必要があることを教えられました。明らかに、神は、悔い改めて、キリストに立ち返る人を救ってくださる憐み深いお方です。しかし、パウロは、自身が神の驚くべき恵みの使徒であるにもかかわらず、パウロの地上における苦しみにも耐えることもまた、神がお許しになっておられることを知っており、その苦しみを喜んで受けるつもりでした。

キリストに帰らなかった人々について、パウロは、最終的な裁きについて厳しい言葉を語ることをためらいませんでした。「地獄」とは、「主の臨在から締め出される」場所です。イエスは、その再臨の後、永遠の裁きが続くことを明確にされました(参照：マタイ 25：31-46 - 羊とヤギのたとえ話)。

パウロは苦しんでいる人々のために祈りに戻ります。

**1:11** このためにまた、わたしたちは、わたしたちの神があなたがたを召しにかなう者となし、善に対するあらゆる願いと信仰の働きとを力強く満たして下さるようにと、あなたがたのために絶えず祈っている。**1:12** それは、わたしたちの神と

主イエス・キリストとの恵みによって、わたしたちの主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためである。(第二テサロニケ 1 : 11-12)

今、あなたは困難の只中におられますか？ あなたの試練は他の人の行動によるものですか？ 今、この場で、正義を叫び求めたいところでしょうが、頻繁に、私たちの苦しみに対する立証と報酬は、永遠の日まで待たなければなりません。パウロは、苦しんでいる信者たちに、キリストの再臨の際、彼らが慰めと立証を受けると言います。必要に応じて、その日まで、正義が施行されるのを待つ心構えはありますか？

### キリストの再臨に先立って起こるべき二つの出来事： 第二テサロニケ 2 : 1-15

一部の人々は、テサロニケ人を欺いて、イエスの再臨がすでに起こったと信じ込ませようとしていました。

**2:1** さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみもとに集められることとについて、あなたがたにお願いすることがある。**2:2** 霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけません。  
(第二テサロニケ 2 : 1, 2)

当時、手紙を作成し、他人の名前を用いて署名することがありました。それらは“pseudepigrapha (偽典)”と呼ばれていました。パウロは、イエスがすでに再臨されたなどという手紙を書いていないことを知ってほしかったのです！ それどころか、イエスの再臨と信者たちが天国へ召される前に、二つ

の重要な出来事が起こります。それらの出来事は、二度目の再臨について、イエスご自身が語られた事柄です(マタイ 23 章、マルコ 12 章、ルカ 20 章)。

**2:3** だれがどんな事をして、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。**2:4** 彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。**2:5** わたしがまだあなたがたの所にいた時、これらの事をくり返して言ったのを思い出さないのか。(第二テサロニケ 2 : 3-5)

イエスの再臨の前に、かつてキリスト者であると主張していた人々による、信仰からの大規模な背教が起こります(キリスト教から離れる)(参照:マタイ 24 : 9-13、特に 10 節)。そして、その背教が二つ目の主要な出来事へと繋がります。

「不法の人」の出現(他の箇所では「反キリスト」と呼ばれています。参照:マタイ 24:15。イエスは「荒らす憎むべき者」を指す)。この不法の人は自分が神であることを宣言し、世に彼を礼拝することを要求します。パウロは、これらの二つの出来事が起こっていないので、イエスが未だ再臨されていないと確信していました。

この邪悪な不法の人が、今、出現することを妨げているのは何でしょうか？ 神には「抑制するもの」があり、不法の人は、神がお許しになられるまで明らかにされません。

**2:6** そして、あなたがたが知っているとおりに、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。**2:7** 不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。(第二テサロニケ 2 : 6, 7)



「抑制するもの」とは誰、または何でしょうか？御霊でしょうか？天使でしょうか？教会でしょうか？神に任命された人間による政府でしょうか？福音でしょうか？御霊が抑制しておられるとみなすのは理にかなっていません。御霊がどのように、神の抑制の働きをされるかは、また別の問題です。御霊は、霊的葛藤の目に見えない領域で、ご自身で抑制しておられるかもしれません。または、地上のキリストの体によって語られている福音を用いて、邪悪な者の働きを抑えておられるかもしれません。または、善い人間による政府を用いて、究極の邪悪な人間の政府の出現を抑えておられるかもしれません。確かに言えることは、終焉の一連の出来事は、神が支配されており、それには、「反キリスト」、「不法の人」による悪魔による邪悪な帝国の出現に対する支配も含まれません。

サタンの王子が地上に現れるとどうなるのでしょうか？サタンの王子は、短期間支配し、世界中の「崇拝者」を引き付けます。しかし、彼はイエスの出現によって破壊されます。

**2:8** その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。**2:9** 不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、**2:10** また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。**2:11** そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、  
(第二テサロニケ 2 : 8 - 11)

パウロは、信者たちに、パウロの教えにしっかりと立つよう呼びかけることで、この部分を閉じています。それから、

彼らのために別の祈りをささやきました。(これら二つの短い手紙の中には 25 を超える祈りや祈りへの言及があります！)

### 励ましと強さのための祈り： 第二テサロニケ 2 : 16, 17

**2:16** どうか、わたしたちの主イエス・キリストご自身と、わたしたちを愛し、恵みをもって永遠の慰めと確かな望みとを賜わるわたしたちの父なる神とが、**2:17** あなたがたの心を励まし、あなたがたを強めて、すべての良いわざを行い、正しい言葉を語る者として下さるように。

(第二テサロニケ 2 : 16, 17)

パウロは、彼自身とその仲間たちのための祈りを求めました。神のみ言が彼らを通して広まるように。そして、神が邪悪な人々の陰謀から彼らを守ってくださるように。テサニケの人々らのために、パウロは、素朴で美しい祈りを捧げました：**3:5** どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせて下さるように。

(第二テサロニケ 3 : 5)

なぜ神の愛なのでしょう？神の愛は、常に、テサロニケの人々のためのパウロの祈りであったからです。**3:17** また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、**3:18** すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、**3:19** また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る (エペソ人 3 : 17-19)。なぜ、キリストの忍耐なのでしょう？彼らは、苦しんでおり、邪悪な人々の手による、究極の苦しみと、私たちの罪を

背負われ、忍耐され、御父による最終的な拒絶を経験されたお方に目を向ける必要があったからです。「罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。」（ヘブル人 12 : 1-3）。

**働かないことに関する警告：**  
**第二テサロニケ 3 : 6-15**

パウロは、キリスト者が働かない問題について対処しました。おそらく、イエスの再臨が近いので、働くことが不要になると思った人もいたのでしょう。しかし、パウロは、キリストの再臨を見越して生きるとしても、勤勉に働くことは、キリスト者にとって常に重要であると教えています。彼は、この厳格な規律のルールを与えています：

**3:10** また、あなたがたの所にいた時に、「働こうとしない者は、食べることもしてはならない」と命じておいた。  
(第二テサロニケ 3 : 10)

**結びのことば：**  
**第二テサロニケ 3 : 16-18**

**3:16** どうか、平和の主ご自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和を与えて下さるように。主があなたがた一同と共におられるように。**3:17** ここでパウロ自身が、手ずからあいさつを書く。これは、わたしのどの手紙にも書く印である。わたしは、このように書く。**3:18** どうか、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。(第二テサロニケ 3 : 16-18)

パウロの手書きスタイル、または署名は、人々が偽の教師による偽物と真の手紙を区別するのに役立ちました。

**ディスカッションのための質問**

1. 聖書には、多くの預言が含まれています。旧約聖書は、キリストが初臨を預言し、新約聖書は、キリストの再臨を預言します。旧約聖書について考えてみてください。キリストの初臨が預言された箇所を一か所、思い浮かべることができますか？
2. 預言通り、キリストの初臨は、起こりました。この初臨の預言の成就是、キリストの再臨の預言に対する、あなたの見解をどの様に形作しますか？
3. 再臨の預言は、世界の出来事に対する、あなたの見方にどのように影響しますか？
4. 使徒パウロによる、信者たちへの励ましに、あなたはどのように励まされましたか？
5. これらの二つの手紙からあなたが得た教訓は何ですか？